

かながわの 俳壇時評

酒井 弘司

こんにちは、若い世代の俳句では、松山市で開催される俳句甲子園(全国高校俳句選手権大会)と神奈川県全国高校生俳句大賞がよく知られている。

3月に、19回目の神奈川県全国高校生俳句大賞が「17音の青春2017」(角川書店)として刊行された。

応募総数は1万1465通(一通3句)。高校数も210校(うち本県は20校)と増加の傾向という。

最優秀賞受賞作品は5人。

○不意打ちの雷鳴のごと愛を告ぐ
(青森県・七戸高校2年) 長澤魁斗

○青嵐「良い人」なんて脱ぎ捨てよ
(青森県・弘前高校2年) 吉沢美香

○フクシマと埋めても埋めても葱匂う
(福島県・福島西高校3年) 野村モモ

○熟れてゆく力に揺るる林檎かな
(千葉県・千葉西高校3年) 柳澤悠祐

「17音の青春2017」 純粋でいちず、若い感性

(京都府・洛南高校2年)
○日記買う姉の意地悪書くため
に 三原瑛心
(愛媛県・済美平成中等教育学校5年)

純粋でいちず。そして若者らしい感性が一句に込められている。

次に本県の高校生の入選作品から。

○僕一人白い八月日記帳

丸山優月

(麻生高校1年)

○蟬の死骸ふと爪先に蜚気楼
須藤日奈子(クラーク記念国際
高校横浜青葉キャンパス2年)

○短夜や父の帰りを待つコロツ
ケ 瀬戸口優里

(慶応義塾湘南藤沢高等部3年)

○短夜やキッチンに母ゐるらしく
宮地春奈

(慶応義塾湘南藤沢高等部2年)

俳人の金子兜太さんは「一つパンチが効かない感じがあつて、それが若さが足りないことに続く」と、辛口の批評を選考委員の座談会で語っていた。

「17音の青春」は、若者の俳句の登竜門。現代俳句の活性化のため今後とも持続、新風を期待したい。

(俳人)

〈第2木曜掲載〉